

イネ科通信 20

鵜殿観察会

2013/02/22

1. セイタカヨシ

刈り取られたオギやヨシの根元から青々とした葉（葉身）が覗いて春を待っているようでした。それ以外は地上部が枯れたイネ科植物ばかりでした。

先ず、セイタカヨシの堂々たる姿が目につきました。冬にセイタカヨシを見たことがなかったので新鮮な印象でした。葉身と稈は鋭角をなして斜上し、上端も下垂しないことで見分けることができます（イネ科通信 11）。

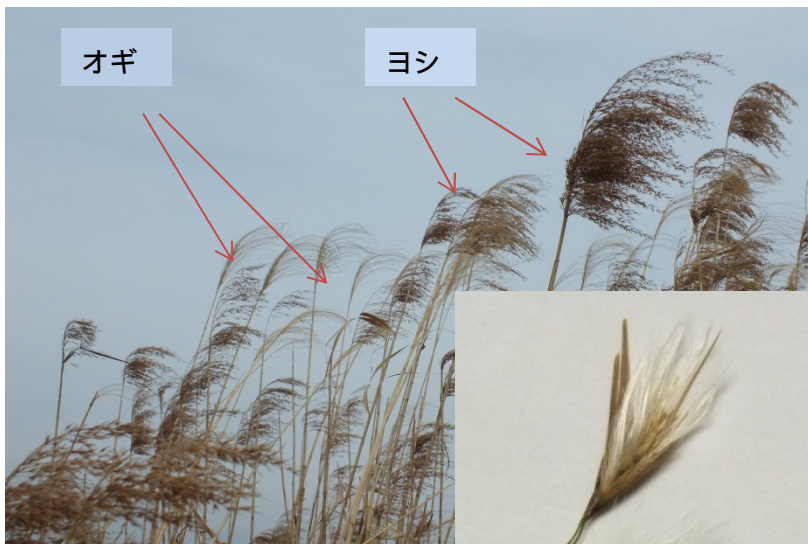
ただし、風が強く吹き付ける場所（川べり、湖岸など）では葉身が横向きになっていますのでよく観ないと他

のイネ科植物と間違えます。また、セイタカヨシといえども生育条件のよくない場所では背丈は小さくなります。

イネ科用語では茎（中空になっている）のことを稈（かん）といいます。オギでもダンチクでも稈の中が完全に詰まってしまうことはありません。



セイタカヨシの穎果



2. オギとヨシ

鵜殿で小山弘道先生からオギは茎が詰まっているが、ヨシの茎は中空であると教えてもらった記憶が残っています。

調べてみると写真の左方にあるイネ科の茎は中が大部分詰まっていて、右方のものは完全に中空でした。オギ（左側）は花序の枝だけが残って穎果はありませんでした。

帰宅後、デジタル顕微鏡でヨシの穎果を撮影したものが下の左側（2枚）で、右上のものは昨秋カメラで写したものです。

小穂は2～4小花からなり、最下小花は雄性でそれより上の小花は両性で、基盤は長く伸び

て柄状となり、その両側に白毛を密生、護穎の先は急に細くなり、しかも両側が内面に巻き込んでいて、まるで芒のように見えます（イネ科図譜より引用）。以上、穎果の方からも小山先生の説明が裏付けられたと思います。なお、穎果をうまく撮れませんでしたのでわかりにくいと思います（下右側写真では護穎が外れていますが、白毛はよく見えます）。

